

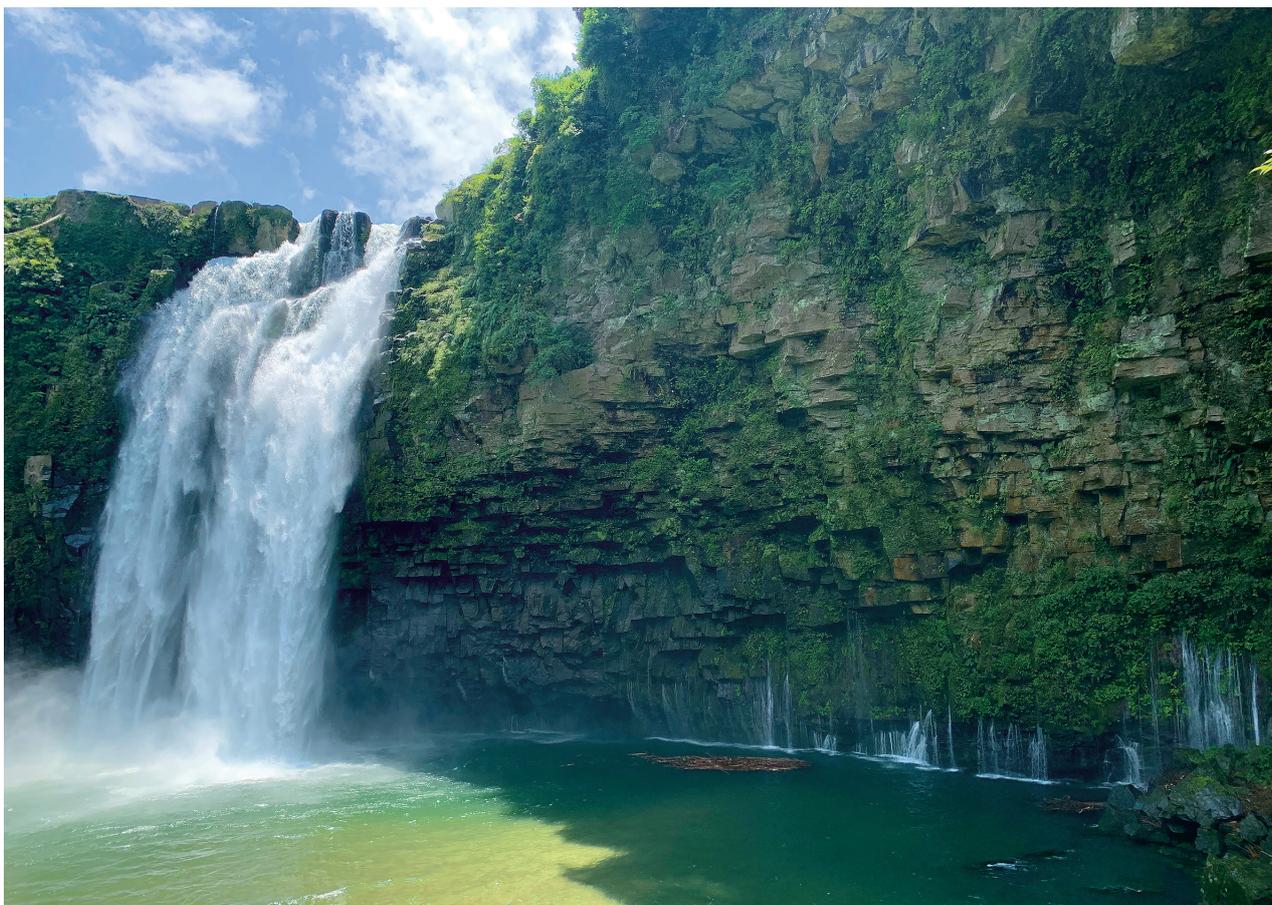
第16号



Pearlland Hospital

パール通信

医療法人 猪鹿倉会 パールランド病院



大河ドラマ「西郷どん」のオープニング映像でも話題となった雄川の滝(南大隅)。

勢いよく流れ落ちる水の音に心が洗われるようでした。今、コロナ禍で起こるいろいろな出来事も、この滝の勢いで全て洗い流してほしいものです。(撮影者：2病棟1階職員)

通信のご案内



- 行事紹介：看護部「活動報告会」
- Dr.によるミニコラム「結核は過去の病気？」
- Nrs.による「看護・介護のポイント」～ワンポイントレッスン・その15～
- コロナウィルス感染対策について
- 部署紹介（看護部・2病棟1階）



看護部

「活動報告会」

～より良い看護介護をめざして～

看護介護実践委員会



当院看護部は「一人一人の患者様に寄り添う看護介護の提供につとめる」を理念とし、「6S(整理、整頓、清掃、清潔、躰、習慣)の実施徹底と厳守」を目標に掲げて日々研鑽に励んでいます。

私たち看護介護実践委員会は、この理念に基づいた『実践教育』を行う委員会です。具体的には、「患者様のケアプランの立案・指導」「日々の業務の見直し・改善」そして自己研鑽の一環として、それぞれの病棟が事例検討や病棟独自の創意工夫、改善・成功した点などについて研究会方式で発表する「活動報告会」を年2回行なっています。

この報告会では発表のテーマは特に限定せず、**自分たちで取り組みたいもの、皆に伝えたいこととは何か**、というところから考えてもらい、その取り組みをきちんとした「研究発表」の形としてまとめていく過程で、上記した6Sを磨き、そして看護師としての資質育成につなげていきたいと考えております。

昨年度の報告会も8病棟それぞれがテーマから考え、自分たちの業務内容を見直した「申し送り廃止に取り組んで」や、皮膚疾患の事例検討として「両下肢外転がある患者の褥瘡への取り組み」など、さまざまな発表がありました。なかでも、「前頭側頭型認知症患者様の関わりから学んだこと」の発表については、最も対応に苦慮したことは何か、どのように関わり方を変えていったのかなど、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

報告会後は、各病棟とも自分たちにも応用できそうなこと、取り組みそうなことについてはまた独自に工夫を凝らして取り入れてみるなど、全病棟に波及効果が見られます。

今後も、当委員会ではこのような活動を続けることで研鑽を積み、「患者様に寄り添う看護介護」の理念を遵守すべく取り組んでいきたいと思っております。



Dr.による

ミニコラム

結核は過去の病気？

パールランド病院 医師 沼野 綾子

皆さんは「結核」という言葉からどのようなことを思い浮かべますか？

『怖いイメージだけど過去の病気だから現代の私たちは大丈夫』このような印象を持つ方が多いと思います。

確かに、結核が日本の死因第一位であった昭和25年からすると患者数は激減していますが、実は未だ毎年2万人近く罹患しており、到底撲滅できていたとは言えません。現に保健所の調査結果より、毎月鹿児島市でも平均して2桁の患者数が出ています。実はまだまだ私たちにとっても身近な病気なのです!!

では、結核の予防法は何でしょう？

そう！ワクチン接種！つまりBCGですね。現在のところ日本では、1歳未満の赤ちゃんの定期接種に指定されています。しかし、これも完璧ではありません。というのも、そもそもBCGは乳幼児の重症結核を防ぐことを目的としていますので、発症予防としては十分な効果はないのです。現にワクチン未接種の年長児以上の海外からの帰国者、あるいは今まで接種するタイミングのなかった成人は、ワクチンの効果が未確認とのことで接種は推奨されていません。

では万が一、発症してしまった場合の基本的な治療法というと、**内服で抗生剤を4種類、6ヶ月以上服用**することになります。中途半端に断薬すると耐性菌が出現してしまうので、しっかり決められた期間内服することが大切になります。

結核は過去の病気ではありません。気になる症状があれば早目に受診しましょう！



その15

Nrs.による

ワンポイントレッスン

看護・介護のポイント

パールランド病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 高崎 靖子

新型コロナの発現以来、介護が必要な高齢な方であってもマスクが欠かせない生活が続いています。そこで今回は「**マスクによるスキントラブル対策**」についてお話したいと思います。

マスクで肌荒れが起こる理由に、マスクを着けたり外したりの動作が肌への摩擦になることと、マスク着用で話したり表情筋が動くことで接触部分に摩擦が生じて、肌が物理的なダメージを受けることが挙げられます。また、不織布のマスクは通気性が良くないので、常に加温・加湿の状態となり、肌温度が約1℃ほど高くなります。肌温度の上昇は皮膚内部の水分を蒸発させて乾燥を引き起こし、汗と皮脂の分泌を増やし、雑菌が繁殖してニキビができやすくなります。敏感肌の方は布マスク(綿100%、ガーゼ、シルクなど)を着用すると通気性が良く、表面が毛羽立っていないため肌への摩擦が軽減できます。不織布のマスク着用時は、ガーゼやシルクなどのインナーを入れて直接不織布が肌に当たらないようにします。顔に合ったマスクの選択も摩擦を減らすことができます。また、マスクを外す際は顎にずり下げず、両手で紐を持ち、肌に摩擦がかからないように外しましょう。

次にスキンケアですが、大事なものは「**洗浄**」と「**保湿**」です。

- 1.適切な洗浄…低刺激石鹸や洗顔フォームを用いて、よく泡立ててゴシゴシ洗わずに泡をクッションにして優しく洗いましょう。拭く時もゴシゴシ拭かず、押さえ拭きをしましょう。
- 2.保湿…マスク着用でダメージを受けた肌は乾燥しています。肌負担の少ない低刺激の製品で保湿成分(セラミド、ヒアルロン酸、コラーゲンなど)が配合された基礎化粧品で保湿しましょう。

※マスク着用の生活はまだ当分続きますが、上手にマスクと付き合っ、高齢者の方々はもちろん介護されている皆さん方ご自身の肌を守りましょう。

参考資料：持田ヘルス株式会社ホームページ





コロナウィルス 感染対策について



当院では2020年の年明けすぐ、感染対策委員会を中心としてコロナ対策の取り組みを開始しました。入院患者さんの多くが高齢者という当院の特徴を踏まえ、とにかく「**院内にウィルスを持ち込まない**」ことを第一に掲げ、全職員・ご家族・各業者関係の方々にも協力を仰ぎ、徹底した感染対策を行なっております。

感染予防・拡大防止対策



リモート
面会の様子

- 院内行事中止
- 患者さんの外出・外泊・面会の原則禁止
(リモート面会や窓越し面会へ)
- 外来・受付の亚克力板やシールドの設置
- 各病棟の空気清浄機・自動手指消毒器の設置
- 外来の発熱専用スペースの設置



入口に
サーモグラフィ
カメラを設置

正面玄関

職員の教育・啓蒙活動

- 効果的な手洗い・うがい・マスク着用の再確認
- 環境整備方法(消毒・換気等)についての情報発信・徹底
- 出勤に関する規定作成(毎日の検温、県外者との接触の有無(2週間)等)
- 行動自粛の呼びかけ
- 最新の感染情報のメール配信(毎週)
- 感染した場合の報告システム作成(フローチャート式用紙)
- 認定看護師を迎えての指導・訓練(感染者が出た場合の具体的なシミュレーション、感染防護具の着脱について等)



職員の机に
仕切りを設置

診察室に
空気清浄機
を設置



首都圏における感染者数の増加、鹿児島市内でもクラスター発生、世間での感染拡大、こういった状況変化に伴い、その都度、当院の対策は十分であるだろうか、不備はないか、新たに必要対応は何か等、委員会で検討を繰り返しながら常に万全な対策を講じております。私たちは職員に対して「**情報収集と伝達**」…正しい情報を適切にタイムリーに伝えること、「**感染対策の教育・啓蒙活動**」…医療職として最善の行動をとること、この2つに重点を置いて今後も対策の強化を図っていきます。

■当院でもコロナウィルスワクチン接種を受け付けております

コールセンター(099-833-9567)にお電話もしくは鹿児島市のホームページから予約後、ご来院ください。

看護部・2病棟1階紹介

当院には認知症治療病棟や療養病棟など8つの病棟がありますが、2病棟1階はその中で、医療行為が必要な方が最も多い病棟です。重度の身体疾患を抱えているため、基本的な日常生活動作である「食べる」「排泄する」「清潔を保つ」といったことが全般的に難しい方も多数いらっしゃいます。私たちは、**病気の治療にあたる「看護」と患者さん方の生活を支える「介護」**、その双方に力を注ぎ、少しでも皆さんの笑顔が見られるようにスタッフ一丸となって取り組んでいます。

医療的処置も多岐にわたります。処置内容により、医師の介助を行います。



医療機器も多種併用しながら、患者さんの細かな変化を見逃さないよう努めています。

コロナ対策で「誕生会」行事が中止になる中、せめて病棟内でお祝いを、との思いから飾りつけ。



♥ スタッフ一同、心に掲げるモットー ♥



こちらは100歳を迎えられた方のお祝いケーキ!

呼吸器を使っている患者さんも、可能であれば状態を見ながら入浴してもらいます。

入浴が難しい場合は、手浴や足浴など部分浴を行っています。

